

汐風を食べてみませんか。

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなつてやってきました

教育旅行で南三陸町を満喫！

今年も多くの学校が教育旅行で南三陸町を訪れています。各学校の生徒は、漁業体験を通して漁師の暮らしや自然環境を学び、農業体験では農家の暮らしや産物の生産の現場を学びます。また、今年初の試みとして、町内32の事業所の協力をいただき、職場体験も行われました。

南三陸町のたくさんの「人の心」が繋ぐおもてなしで、数々の素晴らしい出会いが生まれています！



佐良写真店での職場体験



民泊家庭での味噌作り体験



入谷地区での田植え体験

学校名	日程	主な体験内容	生徒数
北海道白老町萩野中学校	4月21日～22日	農業体験、民泊体験	45名
富谷町立成田中学校	4月22日～23日	就業体験、漁業体験、農業体験	220名
宮城県立利府高等学校	4月30日	繭細工体験、竹細工体験、野外炊飯	81名
仙台市立折立中学校	5月10日～12日	漁業体験、民泊体験	119名
仙台市立吉成中学校	5月10日～12日	漁業体験、農業体験、民泊体験	77名
仙台市立蒲町中学校	5月11日～13日	農業体験、野外炊飯、民泊体験	188名
仙台市立南光台東中学校	5月18日～20日	磯観察、海藻押し葉体験、漁業体験	67名
仙台市立桜ヶ丘中学校	5月19日～21日	漁業体験、民泊体験、農業体験	130名
仙台市立第一中学校	5月19日～21日	農業体験、漁業体験、民泊体験	221名



波伝谷地区での漁業体験

白石市交流事業「親子でわくわく！南三陸友遊塾」参加者募集！

町では、平成19年度から白石市との体験交流事業を行っています。毎年恒例となりました夏の体験ツアーは、白石市からたくさんの親子が訪れ、町内からの参加者との触れ合いを楽しんでいます。3年目となる今年は「親子で楽しく友達の輪を広げ、自然を満喫して遊ぶ」ことを目的に「南三陸友遊塾」と題して参加者を募集します。多くの親子の参加をお待ちしています。

- ◇日時 7月3日(土) 昼12時～午後7時(予定)
- ◇応募条件 小学生の親子(保護が可能な場合は、お友達なども一緒に参加することができます)
- ◇内容 魚市場競り見学、ホタテ水揚げ体験、野外炊飯体験など
- ※白石市の参加者は、3日(土)の夜は神割崎キャンプ場に宿泊します。希望者はキャンプに参加することも可能です。
- ◇参加料 1人2,000円(大人、子ども同額)
- ◇申込方法 産業振興課観光振興係まで電話にて申し込みください。(締切：6月18日(金))

ガイドサークル「汐風」会員募集！

ガイドサークル「汐風」では、団体旅行やグループ旅行でのふるさと案内、また、各種イベントでのウォーキングイベントの案内など、様々な場面で南三陸町を訪れる皆さんに地域の魅力を発信しています。会員は随時募集しています。ガイドサークル「汐風」の会員と一緒に、南三陸町の魅力を楽しみ探訪してみませんか？

◇問い合わせ 南三陸時間旅行サポートセンター ☎47-2550



教育旅行では磯観察や自然散策のガイドとして、中学生や小学生との触れ合いも楽しんでいます！

庄内の風⁴⁵

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

エコランド2010「ラベンダーまつり」

風車を始め地球環境に配慮したまちづくりを進める庄内町では、夏至の頃に満開になるラベンダーとともに人と地球の環境を考える、エコランド2010「ラベンダーまつり」を開催します。期間中は、ラベンダーの摘み取り体験ができます。

メインイベントが開催される6月27日(日)は、野外ステージ、ラベンダースティックづくり講習、特産品の販売など、お楽しみイベントが盛りだくさんですので、家



族みんなでお出でください。

また、この時期、風車村周辺にはたくさんのホテルが舞い始めます。前日6月26日(土)午後7時から、二俣農村公園でキャンドルナイトが開催されます。ホテルとキャンドルと音楽が奏でる幻想の世界へ足を踏み入れてはいかがですか？



エコランド2010「ラベンダーまつり」

- ◇期間 6月27日(日)～7月11日(日)
- ◇メインイベント日時 6月27日(日) 午前10時～午後3時30分
- ◇場所 風車村(山形県庄内町狩川字笠山444-9)
- ◇問い合わせ ウィンドーム立川 ☎0234-56-3360

夢大使 リレー通信⁴⁷

MEMORY OF SAW(鋸)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、美容師で作家としても活躍している佐藤啓さんです。

夢大使 佐藤 啓さん (静岡県伊東市)



かつての歌津町名足37番地。父方の実家。4～5歳の頃だったろうか？その日私は縁側でポツンと独り、春の陽を浴びていた。

「オウ、ボウズ、独りか？爺っちゃんはいねが？」
「ウン、だれも、いね。」
「ソウカ。んでは これ爺っちゃんに渡してけるや」

手の爪が真っ黒なその人は新聞でくるんだ長い「モノ」をポンと放るように置いて去った。中身はすぐに判った。新聞から突き出た柄を握り、バラりとめくると案の定、大きな鋸(ノコギリ)だ。使い込まれた黒い鋼の肌。そして対照的に鋭くピッカピカに光る刃が交互にゾロリと並んでいる。

「痛い！」 ノモウ、ちょっと触ってただけなのに。でもコイツは凄。ホントに切れそう。こないだも爺っちゃん庭の端っこにあった柿の木をあっという間に伐り倒したぞ。たぶんコイツだ。ボクも…ん？と見回すと目に入ったのはすぐ側の柱。そっと刃を当ててみる。「チョリ」 オットオ、ちょっと引っかかってしまった。このノコは長く当てにくい。も一回、今度はちょっと引いてみる。「チョリリ、コリリリ」 オウ！切れる！ソウソウ、爺っちゃんもたしかこうやってた。手にべつとつぼつけて、チョリリ、コリリ、チョリリ…ウン凄いや、なんだか調子が出てきたぞ。

幼い力でもさすがプロの手になる研ぎ立てのノコ。キレイに木屑を吐きながら引くたびに柱に吸い込まれてゆく。初めてのノコ作業。爺っちゃん自慢(?)の業物は手に心地良い震動を伝え、そして何か知らん不思議な快感を心の奥に感じさせてくれるのだった。

近頃ホームセンターなどで売られる鋸はほとんどが替刃式。切れ味が鈍ればポイと刃を交換するだけでいい。

実に便利。だがこうした道具にはゼッタイ愛着は湧かない。かつてこうした道具はおよそ皆、自分で手入れをした。研ぐなんてのはもう当たり前。だから大事にだいに遣った。今はプロの大工さんでも電動で替刃が普通。作業の効率化と言えばそれまでだが、何か淋しい…。鋸は研ぐとは言わない。「目立て」という。専用の鋸(ヤスリ)を使って一目置きに微妙な角度の付いた刃を削る。これはかなり難しい。それでも普段自分で研ぐ祖父が目立て屋に出したのはたぶん刃が欠けたかとり分け大事な一丁だったのだろうか？今となっては知る由もない。

しばしその不思議な快感に酔い浸るうちにいきなり柱は「ブラン！」と宙に浮いた、というより垂れ下がった。切り口から木の香がプーンと立った。ヤッター！ついに大仕事(?)をやり遂げたぞ、オウ！この達成感！フン、と小鼻をふくらませたその時、背後に人の気配を感じた。「コァアッ このワラシ、何てことするんだっ！」 「ああ ごめんなさい お爺さん赦して下さい！」 祖母はゲンコツを振りかざした祖父と私の間に割って入り、後手で必死に私を庇う。「こらえて下さい。こしただ小さい童つ子(わらしこ)がこんな太い柱ば伐つたんでねすかあ…お願いします、怒んねで堪忍して下さい…。大っきくなったらきつと大っきな家は建ててくれる子になつてっや」

祖母は、軍隊上りの祖父の厳しいお仕置きからいつもこんな風に私を庇ってくれるのだった。この時がつく私にとって幸運だったのは祖父が同時に戻ったことだろう。爺ちゃんが婆ちゃんより一足早かったら…いま考えるだに恐ろしい…。60年を経た今でも日曜大工(今は365日が日曜日)で愛用の鋸を手にするたびこの思い出がホロ苦く蘇る。

ちなみに祖母は満75歳、祖父はそののち3年程で後を追うように逝った。あまりにも早過ぎる…とそう思う。大きな家はまだ建てられずにいる。